

受益者の皆様へ

## 「ノムラ日本株戦略ファンド」の商品性見直しの検討についてのご案内

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社運用の投資信託に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社ではプロダクトの更なる品質の向上やプロセス等の改善に取り組んでおります。「ノムラ日本株戦略ファンド（愛称：Big Project-N）」（以下、当ファンド）については、これまで運用モデルの改良等、品質改善の取り組みを継続してきましたが、低水準のパフォーマンスが継続しており、十分な改善に至っておりません。これまでの施策により一定の成果を確認できているものの、「ファンド・レビュー・レポート※2023」を弊社が公表した後も引き続き改善すべき点が認められる状況が続いております。

今般、お客様に十分な付加価値を提供出来ていない状況を解消するため、より抜本的な商品性を見直しについても検討を開始するに至っております。以下にその経緯についてご報告いたします。

※「お客様の最善の利益に適用商品提供」およびそのための「プロダクトの育成、競争力強化」を目的に、弊社が2023年度から発行を開始した弊社の公募投資信託を評価したレポート。

謹白

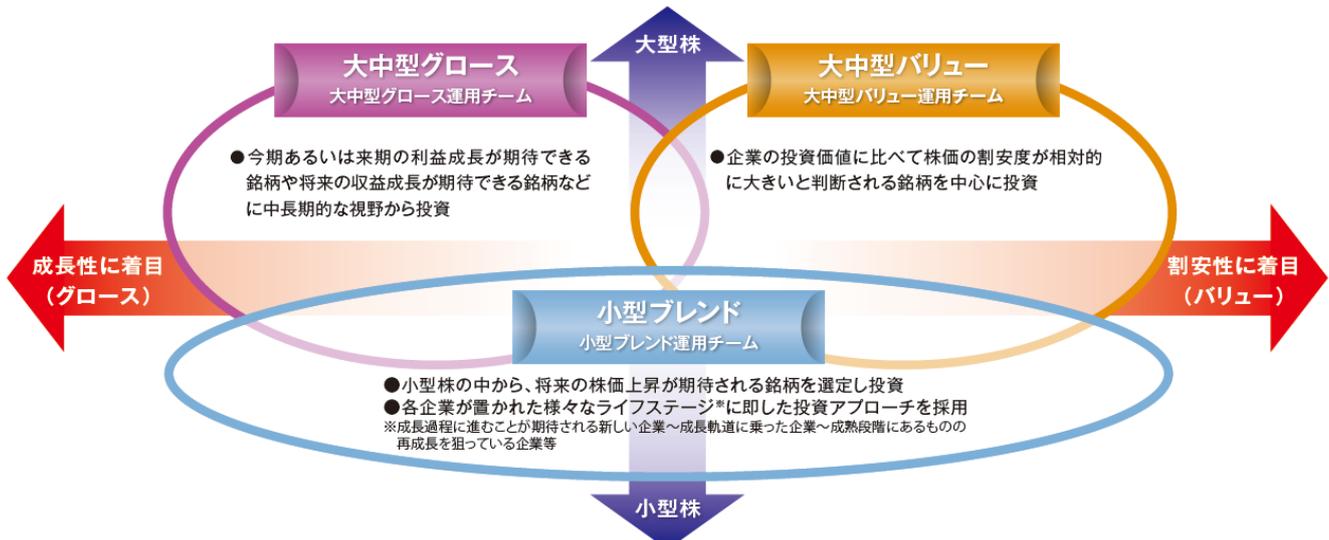
－ 記 －

### 1. 当ファンドの運用戦略

当ファンドは、日本株式を主要投資対象とし、投資対象銘柄を「大中型バリュー」、「大中型グロース」、「小型ブレンド」の3つに区分し、それぞれの投資スタイルに応じた専門の運用チームが個別の投資銘柄の選定、投資比率の決定等を行ないます。

各スタイルへの資産配分（スタイル・アロケーション）については、当ファンド専用の投資政策委員会を構成する各メンバーの市場環境見通し、経済見通し等の定性的判断に加え、リスク管理等の定量的判断も参考にして決定することを基本とします。

なお、当ファンドは、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）をベンチマークとしています。



\* 上記は各スタイルのイメージ図であり、全てを説明するものではありません。（作成）野村アセットマネジメント

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。また、上記の体制等は、今後変更となる場合があります。

\* 後述の【投資リスク】 【当資料について】 および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

## 2. パフォーマンス改善に向けた取り組みと結果

当ファンドのパフォーマンス改善に向けた主な取り組みの概要は以下の通りです。

<①2004年：当ファンドの運用専門チーム（BP-N※チーム）発足>

ファンド全体での超過収益創出を図るべく、各スタイルの運用者を集めて専門チームを新たに設置しました。

<②2011年：BP-Nチーム体制変更>

スタイル配分効果の追求と各運用者の銘柄選択への注力を図るため、スタイル配分担当者を独立させ、各スタイルの運用者は各運用チームへ所属する体制に変更しました。

<③2018年：スタイル配分の見直し>

スタイル配分効果の強化を図るため、スタイル配分の投資判断のために参照する経済指標等を見直しを行ないました。

<④2019年以降：各スタイルのリスク量の引き上げ、スタイル配分の見直し>

大中型バリュー、大中型グロースについて、スタイルの特徴を強化した運用に改善し、リスク量を引き上げました。また、各スタイルの期待リターンを計る定量指標を導入するなど、スタイル配分の見直しを行ないました。

上記の施策に取り組んできましたが、当ファンドのパフォーマンスを明確に改善させることが出来ませんでした。

※当ファンドの愛称である「Big Project-N」の略

## 当ファンドとTOPIX（配当込み）の年次別パフォーマンス

	当ファンド	TOPIX (配当込み)	当ファンドの 超過収益
2000年	-31.8	-24.8	-7.0
2001年	-23.9	-18.9	-5.0
2002年	-18.3	-17.5	-0.8
2003年	21.5	25.2	-3.7
2004年	12.6	11.3	1.2
2005年	47.7	45.2	2.4
2006年	2.8	3.0	-0.3
2007年	-12.1	-11.1	-1.0
2008年	-44.3	-40.6	-3.7
2009年	10.7	7.6	3.1
2010年	1.3	1.0	0.3
2011年	-15.3	-17.0	1.7
2012年	18.7	20.9	-2.1
2013年	56.3	54.4	1.9
2014年	10.2	10.3	-0.05
2015年	8.8	12.1	-3.3
2016年	-2.1	0.3	-2.5
2017年	24.5	22.2	2.3
2018年	-18.8	-16.0	-2.8
2019年	19.6	18.1	1.5
2020年	7.0	7.4	-0.4
2021年	13.0	12.7	0.2
2022年	-8.8	-2.5	-6.3
2023年	24.0	28.3	-4.3
2024年	14.6	15.8	-1.2

(単位：%)  
2000年は2月末以降。2024年は11月末まで。  
当ファンドは基準価額（分配金再投資）を使用。  
(出所) プルームバークのデータを基に野村アセットマネジメント作成

## 当ファンドとTOPIX（配当込み）のパフォーマンス推移



(当ファンドとTOPIX（配当込み）は2000年2月末を100として指数化)

期間：2000年2月末～2024年11月末、月次。当ファンドは基準価額（分配金再投資）を使用。

(出所) プルームバークのデータを基に野村アセットマネジメント作成

基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

\*後述の【投資リスク】 【当資料について】 および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

### 3. 当ファンドのパフォーマンス

前頁で記載しました様々な改善の取り組みを行なって参りましたが、抜本的なパフォーマンス改善は見られませんでした。弊社で公表しております「ファンド・レビュー・レポート2024」では、2023年度に続いて運用実績においては競合比で下位であり、経費率も中央値を超過していることから経費率に見合うだけの十分なパフォーマンスを継続出来ないかと弊社では考えております。

これまでの当ファンドのTOPIX（配当込み）に対する累積超過収益は、要因分解すると信託報酬などのマイナス分を銘柄選択効果とスタイル配分効果で打ち消すことが出来ず、マイナスとなっている状態が継続しています。

銘柄選択効果については、設定当初にマイナスとなりましたが運用体制変更・各スタイルポートフォリオの投資銘柄絞り込みなど運用改善に取り組んだ効果もあり、2011年半ば頃からは概ねプラスで推移しました。

スタイル配分効果については、定量モデルの改良などを行なっていますが、超過収益獲得に至っていない状況が継続しています。

異なるスタイルを組み合わせる当ファンドではそれぞれのスタイルの超過収益を相殺することもあり、ファンド全体としてリスク量が十分ではないことなどがパフォーマンス改善に結びついていない状況にあります。結果として、銘柄選択効果とスタイル配分効果は設定来25年弱の累積で30%程度のプラスに留まっており、経費率と比べて十分な水準ではないと考えています。

なお、当該分析は各効果の数値を月次で累積して算出しています。2020年頃からその他が大きく拡大していますが、長期間の分析であることに加え、これまで控除された信託報酬によるマイナスの影響が株価上昇を受けて拡大したことが主な要因です。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

\*後述の【投資リスク】 【当資料について】 および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

## 「ファンド・レビュー・レポート2024」 における当ファンドの評価※（一部抜粋）

（評価基準日：2024年3月末）

運用実績	商品性	情報提供
R	R	G

運用実績：信託報酬等のコストを控除したパフォーマンスが、競争力のある水準となっているか。  
商品性：長期的な資産形成に資するか。期待収益および運用実績に合った適正な信託報酬水準か。お客様のニーズに適合しているか。  
情報提供：投資判断や運用状況の把握に資する適切な情報を提供できているか。分かりやすさに配慮できているか。

※以下の通り各評価項目について3段階で評価しています。

お客様への継続的な価値提供の実現に向けて

- R** (Red, 赤) 改善すべき点が認められます。
- Y** (Yellow, 黄) 改善を検討すべき点が認められます。
- G** (Green, 緑) 価値提供に向けた取り組みが認められます。

#### ●運用実績について

競合比較	3年	5年	10年
	下位	下位(劣後)	下位

#### ●商品性について

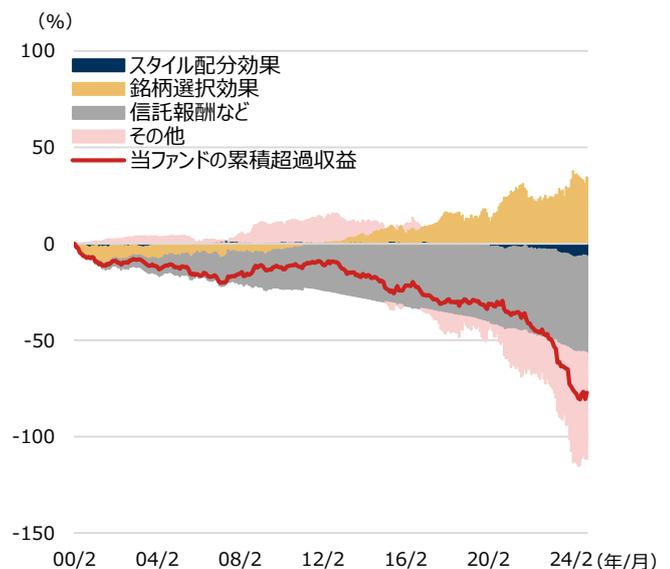
経費率	当ファンド	中央値
	2.08%	1.65%

運用実績の競合比較は、複数の外部評価機関（Fundmarkレーティング、および、Morningstar Ratings）における3年、5年、10年の商品分類ごとの競合比による評価を参考にしてしています。各期間毎に「上位」/「中位」/「下位」に分類し、さらに「下位」の中でも競合比で特に劣位のものについては「下位（劣後）」としています。

商品性の経費率は、信託報酬を含み、同分類のファンドと比較しています。

（出所）野村アセットマネジメント作成

### 当ファンドの累積超過収益とその内訳 （対TOPIX（配当込み））



期間：2000年2月末～2024年11月末、月次  
当ファンドは基準価額（分配金再投資）を使用。  
信託報酬などは、信託報酬が控除されないマザーファンドと当ファンドとのパフォーマンス差を月次で積み上げたものを表記しています。  
その他は、当ファンドの累積超過収益と各効果の差分です。  
（出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

#### 4. より抜本的な商品性を見直しの検討について

前述の通り、経費率の水準に見合うだけの十分なパフォーマンス達成を目標に改善の取り組みを進めたことで、銘柄選択効果に一定の成果は見られましたが、各スタイル間で超過収益を相殺する傾向が残る状況が続いています。また、当ファンドの特徴であるスタイル配分効果について、改善の取り組みを進めているものの、超過収益を獲得するに至っていない状況が継続していること等から、今後も早期の運用改善は難しいと考えております。

このため、弊社としては早期の品質改善を第一に考え、お客様に十分な付加価値を提供出来ていない状況を解消するため、より抜本的な商品性を見直しについても検討しておりますことをご報告いたします。お客様に十分な付加価値を提供出来るよう、必要な対応案についての詳細が固まりましたら、改めてご案内をさせて頂くことを想定しております。

引き続き、お客様の最善の利益に適う商品の提供に向け、プロダクトの品質向上に一層取り組んでまいります。

## 【ファンドの特色】

- 中長期的にわが国株式市場全体のパフォーマンスを上回る投資成果を目指して、積極的な運用を行なうことを基本とします。
- わが国の株式を実質的な主要投資対象\*とします。  
※「実質的な主要投資対象」とは、「ノムラ日本株戦略ファンド マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- 株式への投資にあたっては、投資対象銘柄を「大中型バリュー」「大中型グロース」「小型ブレンド」の3つに区分し、それぞれの投資スタイルに応じた専門の運用チームが個別投資銘柄の選定、投資比率の決定等を行ないます。
- 各スタイル運用チームへの資産配分(スタイル・アロケーション)については運用総責任者を中心とする社内エコノミスト、アナリスト等から構成される当ファンド専用の「投資政策委員会」が、投資環境見通し等の定性的判断に加え、リスク管理等の定量的判断も参考にして、適宜変更することを基本とします。
- 株式の実質的な組入れにあたっては、フルインベストメントを基本とします。
- 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマークとします。
- ファンドは「ノムラ日本株戦略ファンド マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 原則、毎年3月および9月の20日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。分配金額は、基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。

\* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

【投資リスク】

ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 無期限(2000年2月2日設定)
- 決算日および収益分配 年2回の決算時(原則3月および9月の20日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の基準価額
- ご購入単位 一般コース:1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)  
または1万円以上1円単位  
自動けいぞく投資コース:1万円以上1円単位  
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象ファンドにおいてNISAを利用した場合には課税されません。  
ファンドはNISAの「成長投資枠」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2024年12月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年2.09%(税抜年1.90%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時)	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に依りて異なりますので、表示することができません。  
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

《分配金に関する留意点》

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

●東証株価指数(TOPIX)の指数値及び東証株価指数(TOPIX)に係る標章又は商標は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社(以下「J P X」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)に係る標章又は商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、東証株価指数(TOPIX)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

**NOMURA**

野村アセットマネジメント

設定・運用は

商号：野村アセットマネジメント株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
 加入協会：一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／  
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先：野村アセットマネジメント株式会社

●サポートダイヤル ☎.0120-753104 <受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

●ホームページ

<https://www.nomura-am.co.jp/>



#### 【当資料について】

- 当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

#### 【お申込みに際してのご留意事項】

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

# ノムラ日本株戦略ファンド（愛称:Big Project-N）

## お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録金融機関	登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○		○	
株式会社東北銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第8号	○			
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○			
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第41号	○			
株式会社北國銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第5号	○		○	
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○			
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○	
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号	○		○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	
株式会社筑邦銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第5号	○			
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	
株式会社きらやか銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第15号	○			
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第22号	○		○	
株式会社宮崎太陽銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第10号	○			
横浜信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第198号	○			
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
安藤証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第1号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○			
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡地証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第5号	○	○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第3号	○			
木村証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第6号	○			
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第110号	○		○	
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○			○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○			
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

# ノムラ日本株戦略ファンド（愛称:Big Project-N）

## お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
FFG証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第5号	○			○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
丸三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第167号	○			
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第20号	○			
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第199号	○			
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○		
豊証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第21号	○			
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
PayPay証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2883号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

# ノムラ日本株戦略ファンド（愛称:Big Project-N）

以下は、取次販売会社または金融商品仲介による販売会社です。

お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。